特別
へ12
5127
10

玉鬘

并一 初子

并二 胡蝶

并三 螢

玉鬘

巻名ハ哥とも見えて六条院三十
五歳の三月より十二月まての事見
えたり玉かつらの君四歳の年乳母
にくしてつくしへくたり給ひし事とこの
まてはいつゝハ廿年ちかりのまへのうすく
年月をかさねたりめ遠也し　玉鬘此
事を書へきまてなれハまり夕かほ上
のすゝいひ出を涙あり
神しあふされ　(和)乃連させ見え　放埒(ハウラツ)なるへ
乱名もしれな　(河)いぬるの茨の山なる

ゐる波も　いとゝ云て見つるその
うらかなしくと　舟人のこゝに云哥なり
舟人も誰をこふとて　此ハ源名前なりし
こし方も行末もと云てね　けは前花ちる
小娘の哥ハあはれつゝ　あてきハ此き
なり此物と此哥よむへきてしあつね　ハ父母
云て云ふ此なり此人の云すにおもすなれ
と十の年此なりへよゆへと云てねむ
父らもそくの家の中君としてはいさく
此りし云てゐけ行くしもるを経ぬる
玉かありはてゝ年去て十まの内

なりくへて後　亭き海を父母のよこ女
さらんよりゆかしさや上の詞よりさ給
ましつゝハ残りつゝハ乃しそましとをも恋
と残りつゝ父詞かくりと見んも花落れ
少弐ハ乃るとも少弐ハ下向ましかとも
又此少弐人のめのと此となとつゝて下
あいさま又かゝし源氏の御めのと　大弐のめのと
大弐の命　ぬかの母　下向よし末摘まてひ見てさり
夕顔の御めのと又下るよしさき舟出
のみ乃玉鬘ひしを　少弐の女ハ
ありてあるすいきてありしん此給

[illegible]

あてなる姫のうつくしきやう

夕顔の巻にうちとけぬ夏ごろ

程まさりてうつくしやけんこのうへも武

の方なりうつくしく似あひ給

ひなのひとへ　思ひやりなき別れかな

ちりやかゝるなのみなれ

ときはかきつばたの花ハ色ことなれ共

なのみ清涼ハ名所　一説　ちりぬ花ハ

白き物と書て花へ非ずとあり

其ゝ歌仙不多的

世界にてつゝまれて　小武丈姫ハ

美女なれ　夕顔のうへの母なる

尼公ハ悲而なりぬらあく

とハ世姫ゆうれ人よりもをそ

小武ひんなる　諸國寺の云ハ

年可為限但陸奥出羽大宰府也

云官國始自筑前太宰府在千里以外

い若の十ちより

玉鬘四つの年より始

て武位ゝ年ゝ後なれハ十四といへり

いはるゝも京しめて　ふつとも云給なり
さるへき人ゝも　又行との事なり
孫弟の孝とハ　親の孝養とは於へ
服を着る心ありとし
甘とかこうる　多屈り思れ人聊玖云
孫んきし　年ハ三とし為やうしすゝみ
云文曲年思まつ御すと云ともいつり
三度ハ正五九月なり
いとむしも何ハ　大宰少弐任なてしひきん
みつりとむあり
大夫監　大宰の監りゝもて叙爵し

多く云て大監ハ正六位下相当官なり
従五位下に叙しめ遣ハ大夫の監也し
称するて監の字留てよむなり
中比このゝ　たとへいの中比兄と云
古少弐比の房ひしすもあり　忠の字有者
孝行をあ思なし　忠臣ハ孝子の門より出
孝子の門よりへしといへり
おしハかりてしめをとりけり　ちゝまゐなさ
尽いめそつれく　指くるなり
さまゝへくゝ書のりく遣なり　よの
羽しあよゝ遣さるとをいつなりつて

きて〳〵しくとの給ふ秋をねたましハ
けふこそはまことにハいとり
いのちとて世にかゝるハなけれとも
ありけり秋のくれと云ふなりて云り
おもをもて　むつてとひまとこいてしり
て親母者と云なり
女者ともいとしけなるハ　むしりの所
者ともらくおくなるのもと云りなる
しといけなり
ひとりなり　人なとなり
ちゝとふ　てんしもあり

八日ちりといふて　日なとなり
雪のもて　三月八日より雪ふりて雪ふりと云
年とへて彩八の　玉髪者の彩まこと
こゝろあれ　ひなハ神と所と
ちんとて監の男て　ちんん所て云くあれ
ちゝ男のけまくひなを　詞もしの
いふ　ものもらく　ものと監のうめあるこ
さハいあて　まゝハまして物を見
えひかしきいあて　ものこと
ひ人のさ所こと所　毎まゝと
母の云ひ人なて　天ちんて娘ちんし

此歌者こゝにみえたりしとて様くいひなたし
たるをとゞめりけるにてこそありけれ其の心ハいはや
なりたるへよく年比俳諧に移りて小
大史監のくの歌にハ正しく此事なるを
此歌者此人に見えし歌に見えさやうとなれり
のあるを聞しむるにあるよしといひき
ひるなりくのことく一首を仮名へて
用ひる例あり或ハ素白躰ハ今へなりや
まさの哥伊勢物語に立の哥なるを
古今集しハ春の部に入たり又こゝに
のくみこゝにえりとりの哥雑古今の哥

ありけるハ春しやとそれにこえ心へにとゞ
其あし歌まてハ哥しあり古ろ伊勢物
語にハ此哥のとをまして仮名のく
業平の歌なり又しひそなりて哥時を
心へみつゝかく猶ん歌まてハあらはしたと
仮名やまちなりへし此古此一首歌不し
心へてり例にかきしきとハ何もなと
言を聞しひるありやといふハ監の歌く
其をなとハいそし歌ハ母の哥ともり
とあらはえいてぬよしときこえしひる
めでたしいつもや監のよとらしくや

しふ阪してしつりや
比いまりくくと　たいハとして飢納言の
なりさなりくくといふなり
多くの人やありきん　さて是ハ讒し隠されく
まれしのたてかくハ　あまくを打続と云へき
年へにける旅宿として　元をんよ見と
つきあつはいふなり
まつの家の此ましへのはさき　比り
ろきとてわし荒くしてなり
しき物語ニ続をな進てて　く続語
喪もてハ久方よあし次さへ事また

へよくさ多のなしもあつハ久前之是を
くくるすさくるそはなた進てを後見
いてよて無部の君の前なり
引き続を見てぬ所らよ　むくりく等
ありかちよまくへてしあり
るやる　母と見てしむ
うすきとん胸のときなく　一説　無子る春武意之
む堅君の前とろへさやひく続ハむ孫
の元くきなりのく荒乃なくハ儀前久前之
かくしまり　遊ひしのさま続くめまなりく
しくくまりハ偏前之川扇ハ指列なり

このぢのせいとハむかしくさてくり
源源頼井不遠見胡地妻児虚寄指是
ハ漢より胡国と攻る時軍敗て胡しらへ
走て人後より又漢より胡と攻し時より女国
へ逃てんと云て胡の人なりとて漢へ送
さり給れて中より走てりし事ニ逃給と
あひなへり　文集

いとめ　い所ハ女なりあさしてもむ
秋長歌　むろのすり
まつてさ
鏡と弟と筑紫をは八幡と同所と云へ

ち　二祭
大師ハ〜〜法師のつさなりし人す
石橋ハ懐よりハ法師なるよあるなり
ろうまくよ　倍宗皇帝の石馬坂ま人
の歌の尼ふくきすと歌のひ名ゝし仏人の
〜〜よりて東より向く日本国長崎
の観音ハ形ハ法師なり義中より二人の貴僧
常ふ宗て東方より来て紙形ハ
面よりくくしんく勿し害自帰ふ
ふりまれと云て彼寺の弟子と云
まて秋国の内ハ　秋国と八日本の
いなり遠き国のさいといひ来国同其

りんみりしまぜハ承悪躰ハましてめぐみあらむ
ひてんとい之り年へさへ進りとひよらむしら
ありしひとつるとやきのやよくき之文之前し
観音経妙音品のもあつ為しさ進ハ躰
悪経ハましてめくさ給もんといふやや
西
蓮道上人長善寺建立之時肥前御参
開山之時同上人称信法よ聖人の妾
穂坂氏繁昌之見縁記曰聖の母ハ藤氏
保栄の息女にくみきされハよしてめく
只今あんといふまりや
一
よりくしいふしく　いはのハかり給もとる

一
歌りしきく身のうきまくよい海文
のやよふ歌しとかり
つくいら　伯耆より十町ばかりまつく
帝小庵より多のやうし見て進たさハ
あてうしるさく伯耆へさ歌りくかしや
ひとてましめくれ　いろし乳女あり
みかみあし　伯耆より十万燈とさすまつ
陸の本に見くすり
家あつしの法師　この世のかりの里とて絶
つ経のきあり　花といふ別れてあり
ちし角行くましらひ　六条院ありさる歌

元あへぬ二八なり

夕顔の宿りの事なり

無友者　いと名を例あり昭宣公門よりあり

くいあし心いとて　きぬとすく

中ひさらの宿り　練絹ハ[illegible]紅の衣

の袖なりあるといふの中ひさらしハ山絹

といふやきぬなりしくとかうへよ[illegible]

きぬときなりへし

中ハたゝ[illegible]や　むらさきのめ[illegible]のすく

[illegible]のすり[illegible]ハ用し也　夕白[illegible]のすり

いつくいたん[illegible]

[illegible]ハ[illegible]　前の詞ハ[illegible]

[illegible]のくすこと[illegible]

[illegible]

[illegible]　和道[illegible]たとしたる

[illegible]ハ暗[illegible]

[illegible]　昭伝よりと[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]草の[illegible]

[illegible]

並てもくりあり
いとあはれて　かの人のとまりの中
に神をせし事よりぞ云ハなり
すくし足なれとも人ハ　右近の事なり
佛の古の方に　長谷寺 信貴毘沙門
に扇をし揺く人と前をしけりや海
多年のかゝぬとハ年とぬそりと云尾し
この国の事　大和守なり
あめ下を治むよ　四海安危照掌
内百王理乱懸心中　文集にいへり
あまの子をさへ　何をしかまし給ふへくとそ

観世音寺　筑前国くミ川の作事を観
世音寺同事の清の八まきの名なり
みあしするを　悦ゆなる乳多なり
さやうの人とハ大徳をしハくりしく来たる
くろき法師ぞの事を由なり
向ひ居　出るて此神をあらしと云絶
其人はあわりん見てまゐり出ぬ　まさと
この比しみやめし多なり
又神ひ出給ふ姫君　あし此姫君なり
あらさいの治めて　若者この治すなり
袖よ出ひ給ひてまて　源氏の承治弟ほ

よき句のしなの好ミハさま〴〵なり
いにしへとちかき〴〵の花やハ　俳の流
花も見へし法あるべしよりくあれと云へ
多なり　了荷せるもあり
まりトひ　小栽の深民へさいりしてあり
まへより頼みて　是ハ動をかけて蔵よし
これにて此枚のさらしと紙　年をへて作の
えりしいはふころなり
まつき樹も　彩つ形の源の御樹川
されき流しも　するまあやし　此句ハ未
あさぬとさましれ世ちもあへ家にて

さりなしきへり
ちつ樹川をやくの事ハ　まるりしの句へ
むかしの句ハ云て稀としなり
こらくしく　第二の句まし〳〵してなり
つらしと分ふくて思ひあひにみあそらし人ハさ
さひまあるく　上智下愚不移と云り
さいひさらハめ中ひかなりそちま
りて又その家をし
ちくしのなかもあのまし紙
あつその君此すまで見てしかなり
加流下事　数すぬといはふころなり

宮近う家ハ　也源と云つゝ居たりし
鬢の香りも此方へ来たるなり
宮ゝひとしひろくして　二条院より
二条院へ歩行ありてちかき
ゆゑ也院へ歩行ありてちかき
ゆゑ也ハくいなり
其所ハ歩行前とさいなして　大人屋敷
ゝろつゝひなり
ゝりひさて方とめ一つ也ハ　むらさき
のゝのめ也なりまゝのゝゝゝ
もういひろゝゝゝゆゑ也ゆゑ
やゝゝ也歩行ゝて　是ハ源氏の歌

歩行ゝて宮近ゝと歩行ゝゝなり
又次のゝ家ゝ歩行ゝまゝりて
とあるハ紫上の所ゝのゝゝ
こゝ迄ゝ　美女　百家
女房廿七八　花ちるハ二十八ゝてあるゝし
と行ゝゝゝゝひろゝの事也
源氏十七家の世ゝ十ゝりゝゝて
の後ハゝゝのゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]　[illegible]
[illegible]　源氏の御物語り
[illegible]　久しくとひきこえ
[illegible]
[illegible]　むかしハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]　あくハたかハなり　(ハの)見證
[illegible]　中文よつよ
[illegible]
[illegible]　ぬりたる文殿なり
あひすまし　[illegible]
世〻有人のこゝろやゝ　世とよあるハ
のすゝとそこゝろ　[illegible]
[illegible]　[illegible]
のあまよりなり
人のこゝろもあまたハし　[illegible]
世人のすゝとのすゝ[illegible]

いと思ふぬ中と　　ゆゑ中を引き出ハ

ぬ中りいふ　　六條殿

女といふりけく　　

このすりれ

よのつゝさぬまし　　とのりてい

ばくきと　　あまさ浦ゑんせとと

ゆゝ　　ゆゝよ　　ゆゝ

のうへの事なり

りとめんのをとは　　笠とれ迫

くいハ九月のすりり　　秋りを

なり初まへよいり

とゝあよなりまて　　ゆゝくなる迫と云ふ

中將と　　久霜中ゆゝ寒より月

みさゝゝのほゝろひり　　むゝの

ゝの女房とゝ　　源氏と月をゝ

いゝゝゝ入ゝさゝ人ゝ　　とゝゝめ

西の海あゝゝひりゝ　　

ゝとあゝ人や　　源氏の海月より

ゆゝゝゝハ京迫へりゝ

ゝは源氏の海ゝさと　　いり

あゝゝゝゝゝ　　ゝゝいゝゝ

あゝ迫ゝゝゝ　　ゝゝゝゝ

ゆきなくよりこりとしとのようしなり
無名なれとも　常にあらり徳あるのうち
そは家の事なりこそよしやきぬまよ
むかしハきんしのあめありむつましき
多まよしとなり
主らあきぬ人のうすしき　母つかしかぬ
人なしのきしき孫らんゆしなり
人のハちひさん　かのりしとまらん
なしけよ名なり
道りとる力ハ道なれと　弟そ道なれ
とハ源氏の承作事なりいか成るらん

としハ徳ミその後子なるぬ事なり實
又よ志あるあらんのやまといひなり
玉のりハ至らせいちん多あなりけ
給とまて志て此名しまて
人とそふへ事ゆとなりよ　豊後介春
いありて遺言さうへまて忠臭なく
玉鬘と京よくしさてまいりしよ
こころへて面目とりとうしけるなへし
主ら女　きやうと承とてありとりなり
ころあれ　これハ世の名ころなり
きていきとしかるべし　いつきれのよ

の作りあれたるなり

又五月雨鏡ばかくハ　つ月ふてハ月五月

ふりつゝ雨さつきなりつゝさつき

うゝたいのこゝろ　　ちひ深ハ埋りてすたれ

裏花田し　とやう多ハ紅梅のうゝ方

しなつ多さらく世まゝ多なれぐいな

うゝたいの方ん　うさあるハうゝ紅いな

やう多方のきぬのすなりへし

梅ぬいとりたつ　つやうあるうい梅り

さつゝハ埋りてうゝ　ちひ深なりい

梅りハうゝ紅のあやのうりゝ

ほやうあるうゝ紅のうゝ

あさ花田ぬいぬのとりぬ　海賊ハ大波

みうゝや見やうゝのんとりうゝ

清水田り五ハ白ひやうゝぬこうさい

梅りハ紅のうゝ

くりうくあゝさひ山ぬさ　前ハ埋

てうゝ紅梅なりとうさて花

やうゝうりなり多いうり

いゝうのうゝハ　生この人のりぬ月花

ちんのうゝなり五ハきんしのくゝ

のあまゝ山ぬまり

うくね　常にはこなたをいはまあり
青柳の糸よれし　柳ハ緑りてしなへくし
花あるし　又ハ卯の花といふありなきし
緑あをねめくうきとよりなへさて
人ニ見ゆるは色を好みてしより
梅の花ハ梅とめいゆり白きも紅のも小二紅
つやゝなり　白梅とも又の名を梅といふ
うちさとあるかありことは　紅梅ともいふあり
ひり多ありてあつうきありて逢と
白さしう逢てしうすくく見え候
なり河海よりうつりのとをとねと

いづれハあやまりなるへし見えたり
あやめ草ひの時の　菖蒲ハ庭のさくらの名に
添へてひあやめしハ源氏の流れなりく
ひかし深きのさねよ居君のさみたれ座
きまりて見て見えたり又みゆし多くは
のしよく出家の人をきのさねし用に
例あり河海に黄なるゆゑし名しのせ
ら見えうりるひしも黄なるらなりへて
とてく好むし多くはさ紅くして
山吹のうちきみ　神くらひのとをいけなと
ハ方ひるは以ての言のさるよりしも被

[illegible]

[illegible]ハ奥ニ行くハ昔ハ主張

[illegible]

[illegible]

[illegible]

主張の[illegible]

[illegible]

[illegible]

或ハ方の名とさいてうこさし屋
哥まて　名所の哥とありめらるるよく
代集哥抜俗国撰く
和哥のたいあく　廣き石見女髓脳と云
おしてしの和哥の集なり新撰髓脳ハ
五位卿の撰なり
名のたち所をくよりかく所をしてこう
めとさてなめくうたんのこうん
人をくこ人をあしらしたり
とくしおしハさんハ　ひくさのと
のなさけをてぬ所をあらてくを

あまをなり命をのこりてのよ之
あるりハとくしを之あるくき
なり命の事なり屋りてん
ありしよこうくさり
きあまをふりてこうを屋をけり
やまひのくよ所をくてまり
くきをてけぬ向よりあをせて
いるりくし

蓮一　初夕

巻名を蓮として長恋源氏三十
六家の正月乃ゝり四三の蓮と也つ
らのゝ[illegible]れ四三ゝ　六条院ゝ
数なりぬ世ねのうらゝ
のんとてまりくいてり
梅の香ゝ[illegible]のうらのみりより
佛の浄土し旃檀香風をいふり
あり見法花経
[illegible]　この段よりあり書
[illegible]

中しらしく

て中しらしハ此よりの

元三の日人々ハ紙歯固の

祝とて八ものゝとりさしたるとて元ハ

歯ハ人のよわりの

しるしなりとさへ　ひとしていとゆ

みなまてり

ひハ鏡のハりを和て

うゝゆゝ此ものしり

うゝまあつる　あらたまのとしや

そゝしもあり

伊しうゝ

源氏のうゝ

ゆゝとうゝ人々四人ハ頃と

ひゝ倒の源氏の人ゝとそ

ゆゝあへうゝ

ゆゝ

花ゝ八月ゝ八ゝ四りさん

まりまてゝ

ゝゝ伊へまし

ゝゝ八ゝ

あゝりゝ

ゝ池の

源氏ゝ

ゝ世

[illegible]

[illegible]の枝よりまつ　富作りて付

[illegible]例延喜の御製なりともあり

[illegible]ハるれ日のうる

[illegible]

年月と[illegible]て　孫子人古人あ

仮名り早下の[illegible]て古人と用ゐられ

[illegible]しハ[illegible]

[illegible]

[illegible]里れ　[illegible]和歌ハ[illegible]

の[illegible]里ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]　源氏の御さ海へ

年月の[illegible]　大井堂

後[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]の作[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いと世の[illegible]

[illegible]　あさ花田のこいぬ[illegible]

[illegible]　伊勢説尊鑑[illegible]ハ

蒲萄とけるうまとりうつと蒲萄うつ
さいはしたるうのはしたるへきてハうりと
うへさしたりや
おきしかふ　まりはしたるあひたりさり
のしのうつゆうつ
さうしん　はしすくなれさまんを
ゆうしてうくみうしてまつり　五條あり
むうつの源氏よりうくなまて
をけ成ぬしの世や年ハ屋敷
てうくハうまてまふくなる数あり一條源
氏むうりしへうまてうくはうくあまへ

と祇園よハうまてあるへあり
年ふうりのうふうして　紙をくなまて
ふくはしはしうり
うぬふて　琴うりや
さうあう事さう　双紙の紙ありむう
はうのいへのやう　ふうりへさうのやう
かうのうふうやうし　二帋　唐東京ふてうり
きうりへ　白地の錦はけうへし
火地し　火うりのうりうきう火桶
はうりうしうを
えひうつの書　衣被香し書なり

衣裳とりあつめたるかりあはせ
いとはなやかにて花をそくり
まちうけゆへあり　ひしきもの
源氏のとのゐのかたハ
ものしなり
人をもてなすさまなれと見
ものしなり
引手あまり
梅花さけり鶯のこゑ
あはれにもあるかな　言の葉
のさかりなるにめをあらしまへる
まちぬるかたにいかにとかきしら
なりてとりあつめたるあんしたくさ
のあるなりへし
ほうこうはつてきれり　あるは
のこりなくなりて源氏君の御ものさと
てとりつくるなり
ものしなり
ものしなり分つてなりハうこまりたれ
て　ものしなりあるかたあり
ものきたるに源氏へのあくさてへの
ハなくさしたるものしなり
ものやきて　まつりきハなり一條い
のあさうすくもなりてなるとうきて

[illegible]

大饗ハ毎年六月三日
[illegible]是ハ[illegible]ハ信濃の使
[illegible]あり[illegible]信濃ハ[illegible]
の言[illegible]ハ六月二日三日の[illegible]
大臣の才一の言[illegible]
[illegible]時ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一ふりの花を見るなりけり

物がたりきく　源氏より

ちぬる仏なりけり

[illegible]の中は世ゐよ　十樂の中に蓮

花未開樂のべし　い書よハ佛とそん

説はとそん佛と信養せさか三のみ

是をきく

みしぬ山ふるさと思ひ出て　世はうきの

ハなりさ所なれハ[illegible]てしいとり

何つ[illegible]なりけるへの御ゐとハなれ[illegible]ハ

尺さてまつりうのんといふを世はら

きうのあ[illegible]ハなき源氏をうきとて

まりのなりけりはれをすき

しあるへし　世のうきめみぬ山ふる

いとりハ[illegible]ハ[illegible]ふりれ

まて[illegible]のをとを　髮の白くなるへし

きにはなるへくなるへし　衣のう

あるをさいてせられ　[illegible]

あまりあり御ハ[illegible]ハ

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]て衣のたりあるかさいとくハ
衣のそのさとさへなり
さはとり物ならさ　　いとり物のらちきを
主橋の市し用をれをたりけるを
をとりてあるつて
をのらちきをハいつふかをのりしとを
ふん　いらちきをのりしとを
り例のらりてきをへるけやち
方源氏のをとりをへ柳ハこうら
きりくしいたりさういはりハをを
のふりをとりはしらきてハらを

きをみ唯をうをのりをハひをくを
ををををいつるや　一説　ををきをを
ををををのををり
あくをりをへをを
ををを射をいり
をををを　はををををををりをを
ををををハをををををををを
をれあをを海せををををりをり
双男ハをを薬ををり
きををの人ある　ををををあをん
はををり人ををををを海へり

みのころもを　蓑の代よりの衣なり

のべのすんはありなんといふこと葉なり

いさりなれ　今よりまを世てきるべしなり

ちとてこそ　とろのなりの愚案

あゆさハ　ゆゑの形なり

むこの院　二条院なり

なつの梅の花の　紅梅と見たく上ふ

猶よりてしたんあまりなり　うす紙

角ちりめんなり

長絹の　むこの人の用の几帳なり

袖ちらつかりて　源氏ちらくなりあり衣

わうこの海とちらつし思ひてて　心あり

ほそまひのさ海を　紙海苔あんすると付

てを作立てくてやあるのとなり

てのさまよりなり

長よ角杙の浦　海苔なり

作るきなりく　是ちきんの海と

うとしなりむくいるとハちきむ

一つ立なりしひのあるくさと居し

なりてをとへハ佛よとをとをとと

なりすなれみをあるあ和歌しハ典

中乃変くしり世人の分のこのす

とのゝまゝなり

はゝきまゝなるも

ゆゑなきまゝなるも

余て云てゝ　限あるの別のこゝろ

なれ共命ハ定ふ云ねとい云りてゝ

男踏ハ十四ゝあり

ゝこゝろ

あゝ陛下の御信ゝ下の業ゝ

しゝめゝりてさいゝゝとゝゝゝ舞ゝ

はゝ事あり四月十四日ゝ京中の

踏ゝ月ゝ舞ゝてあるゝゝゝめゝ

りてゝゝゝ舞ゝゝ事ゝゝゝ

の世ゝ千秋百歳とゝく逆異ゝゝ

ゝゝゝのあゝハゝゝゝの余風ゝ無院

の天元ゝ年男踏ゝゝゝゝ後ハ記録

なゝゝ而見なゝ

院ゝ　ゝ院ゝ前坊の御ゝなれゝ院ゝ

ゝゝゝ院ゝゝゝゝゝ

の事ハゝゝゝゝゝ

左右の舞い　さゝゝゝ

水むしま尾　今業ゝひまゝゝハ男踏

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ踏ゝゝゝ

舞ゝゝゝゝゝゝゝ酒或湯付ゝゝゝ

[illegible]と云の澤と云のたき簡略すべし
又養脂と用と飯澤と菊澤と云ハ引
はくろひて養生する係り踏合の人合て
とめらると澤路よりとくへ帰りの澤よりハ
[illegible]ハ水りと人をのこ[illegible]
又ハ[illegible]と云又人ハ飯と食し馬ハ
[illegible]と云ハ飯澤菊花云ふくさひ
さるみりと用ると水馬産しいし養脂
と用ると飯澤と名付ると又殿牧合ふ
水路とハ舟とりて[illegible]と澤しい
[illegible]いま其ハ[illegible]

[illegible]
本[illegible]踏合の人ハ本函綿冠麹塵
開脇袍白下襲着深沓持白杖　西[illegible]
襲東帯に青袍麹塵袍白下襲半
臂白石帯深履綿花白杖　今案
に[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ位袍と着すべ
[illegible]白杖ハ舞人まて是とおなり
舞[illegible]ハ絵鞋とくとい[illegible]
殿の中将　[illegible]
竹川　に　竹のもとしのつゆなりや花ちるのよ

[illegible]とハ[illegible]てやめさせ[illegible]て　仮[illegible]

かゝれるすゝ　神[illegible]

神[illegible]　踏[illegible]

世[illegible]

りゝみ[illegible]

かゝ[illegible]　冠の腰[illegible]

[illegible]　世[illegible]

なゝめ[illegible]

[illegible]　西[illegible]　踏

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]　仮式[illegible]

[illegible]花[illegible]

縁の[illegible]

中将の[illegible]ハ　中ねハ[illegible]　[illegible]弁少[illegible]ハ林

小[illegible]人後[illegible]

[illegible]

万春楽　踏[illegible]人退[illegible]

の[illegible]

[illegible]

[illegible]

前に申上候へ共いひてはなるまじ
八月廿日ばかりまでは方々より
のびて女子の事ありけれ共仕
まつりかねなりやいかゝあらん
後世ちかくもしつゝしりけや
まさしくよもつ
八三月の間よりの結ひすゝめ
まつしけて女子とんとさまハ
らといひけれ共なくいひきる
まて母ゝ推申まつるみしらり
世琴ゝの　笛しらべハ琴笛巣笛を
笛の中ゝ　ひゝいへを十ゝ結ひ
和琴琴琵琶よの引ハ琴の中ゝ
うの風ひき袋
玉ゝの緒ゝ引ハ絃
ゆしひくゝ孔雀
乗ゝ

垂二朋蝶

巻名あり　源氏第三十

六条　初めて　年の事　但

是も三月より夏まで　ものがたり

又四三垂　ものがたり

所の里よりはまさりめしやと

ゆりぬとハ白さあまりなるに

のおまへハ花もりの　あるまじ

そのりうさいかや

いろさりそ世のひて　舟　懐東

庭さのの橋なり

雅平寮の人へ　手紙

さかりに

うゑ　中宮ハ　内院の内

なりまて　多屋　ものがたり

ぬうちにあへし

まりやうに　中宮の　女房へ　ものがたりの

舟　ものがたり　みな

こなりさの　むらさきの　人なり

新古　新編　新編　ものがたり

ものがたり　ものがたり　ものがたり　ものがたり

房　ものがたり　ものがたり　ものがたり　ものがたり

かりよハ盛ふるさと
ふるさとのくさ

続廊紫苑架裏御

紅葉棚　文集

流のあやにをんとまつへ　波の文乃ふるさと
まつ〳〵と鴨のあるなんとまつへ
流れていりやや
風ふけハ流の花さく　山吹のさくら落
つさきは山吹の色なし　ちん作は山吹
のさきとていまやとて
又近江の名所て山吹の流回所たり
山吹のこい茂り　ゆるより変

山吹のさきかてるさくり
あれしの山ともあり　さくらなん
ちん安のうらいと見とハ之所とて
の中ていてこれ　ちくしてこれといるとり
ちて花をあ名ハ変ふ　いりいと
を中文ハ紫の海方この女房の
変ハ三つこいてこれ　是ハまつ
いの陸奥　ちろ明ろ三りくひの
りつさくり中文の女房ふ
ふまるり
花とうれませくるみ　錦上鋪花

云後あり　　雙調ハ春ノ律

うちてうち吹きてく

うきうち調なり　春ハ双調　夏ハ黄鐘

秋ハ平調　冬ハ盤涉　中央ハ壹越

あなあなうと　　俗馬系呂

まきのうちく　　呂なり

くりうちよ　春楽ならひて

反音ハ呂より律ようりうと云て長音

系ハ黄鐘調の楽　平調しかて

用りしやて易　但黄鐘調律ならひ

ハまくよりまくうちやうありしのられハ

ならうくくハ　　春部とうあり

春柳とりうくし

よりてうしやう　鳥のめてうたいハ

のむしやう　　俗ようの律とりあハうし

てうあうあり

中ようハ物くうて　　春代歩方法孫

あなあうあり

うのいなあ中の　　ようれ石中

ふうハありあ　　うらうりあすのさ

ようれ

ひうくうさ　　ようりあうりけさう

今よりのち書きそめ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

佛よりたまはりてまゐりたりし　[illegible]

[illegible]

[illegible]

鳥蝶ふさ[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あ[illegible]　[illegible]

樂人たちのうしとらの方へ

きやうかうの人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

胡粉冷動者烏賊悲黄老弾者嬰
兒起而舞[illegible]

又伝て[illegible]童のまひ[illegible]

多りて[illegible]用い伝

[illegible]

瓶[illegible]

衣[illegible]

物の[illegible]

[illegible]

女の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]て物語の化者なり

[illegible]井や清[illegible]いとめん

是ハむつの石[illegible]清[illegible]めるし[illegible]

[illegible]ハうりてあさくさい

ふなかわさうりとしてりかやさハ人り

あさむしろ[illegible]やさなるうと又のさ[illegible]ハ

[illegible]人の[illegible]りの[illegible]

[illegible]ハらし[illegible]

又[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

到於其許有懐意而倒履而回矣盞
跡歎曰孔子仆矣
孔子はさる人といふは首より世にて
ひとりなみなる人
是ハいつかたをくしたるふか
やうのあさうぬきなり
のさゆうろくなきつてやはりかた
さはやかぬ人のこゝろ
をしらしらくうえめしなりきやは
寒ハてハされさしさらや
中しらさりやうとあり　仏ばくとい

今なりつかうりはりしこと
さてありめくりはり　さはうはいつくす
はなちうしはしはしなり
なてこれ　なてこハはりて紅梅うち舌
ありさはのもの多ハ卯花をとちや
卯花と云ハはりて白裏りえ沢あり
きさうとハ多あはのすなりへし
さハしくとは中はりてりし　右近の歌
とちのもあ中はのはーはりとも
今のやうしハなりしや源氏のこ
なりの歌ハ右近ハ立近うしハなりへきなり

世をすてゝ　ありたるなん
きんしの　ぞくしゝ　ゆゑ　なきゝも
ゝ　ぞくぬ　ハ　ありし　やうなり
ゆゑなこと　如　唐の　ゝなり
下ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　官　あさ　ゝ
あゝ　人　なり
よつゝ　ゆゑ　あゝ　世を　むつの
ゆゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ハ　ま
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
やゝ　まゝ　き
みなきんしの　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
親　ゝ　中の　遠　ゝ
世の人　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ふうさりせりし
ませのこしよれ六くくし　その世
ふやこハ人りこ　ちぬてうとく尾
ちんとうり
野さり世く　すこれの今りや
とうよいうれんん世の　その世てやと
めうと又のうりよりなりてうこれ
なり下の今こ又ようこ世こや
のこうとうれり
むーぬくり　信者物徒をしたれ
やうとうくなりし事あり

久魚ハあまり形ぐ
ゆうるとうとうり　源氏ぬ
いこみこうしこあるり　源氏ぬ
ふ孫今りうと月りふまへうう
こうしひやうなこのようて
うてて又　四月天氣和且清
緑槐陰合沙堤平
まりあいの君ぬ　いにハりをも鬢
すの清こうしあうり
涼ふこうて　蓼こと久郭のこ式の
とゆりひ世ぬまこうり

橋のくもりし秋よ　それも分きて
ぬるしハむつみ　おすま毋ぬること
秋の夜もすがら　分きて
八毋若ハたもとめく　浦ゆく人なき
あさくハ思ひ　させぬ　うゐ
クもぐのうゑ　りゆり
うゑのめくのき　源氏のれ
のやうなハあ　と
いとさうなり　あるの間
とうまハ見　この間
敵の親なり　源氏とあり

ちなみに又三つ　りうとてこゝ
世のこゝろ　ちさの人をさしあり
めくゆひ　ゆひ
かくゆ　くハあ　ゆ　ゆ
ふ　のさ
らい世なる　人の　ちう世人のう
ひとむつ　ゆさ　ハ是
り　ハ是　ひ
ゆあし　思ひ
うゑ月一　ちらゆ　クもハ
ゆ　ゆ　ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

垂三要

巻名八奇と詞にして号次源氏の
若三十六家の月事を題とし
いまはくとをとをしき　清信清年

のゝ露ぬしなり　源氏の君なん
思ふの外なりけり
無れなの事なり
ワくゝ　ゆくこやうあるやうなく
かなしなる
まめらしいかゝとく　むつの実
なりかゝるまこへとなりあいきやう

つきあるゝ源氏の見るを見る
ゆくりなく例のなりのこゝあるなり
清涼殿の月を　高しの君
月見となりめるを　月見とハいし
月なる八之神代よりいとゝいつる
月毎のこゝよ人を見るよりこの
なりあり

ゝゝ有しのゆひして　文のことを
源氏のあゝ世ゝ過てゝり
物なりの毎まゝ内さと　紫式の
ゆりなんさまゝとゝきんゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

分つゝハひさ入　むらゝの雲葉相

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]の

[illegible]　[illegible]

[illegible]　作者の詞なり

[illegible]　源氏の文なり

事とゝまりぬる

さとゝなる市ゝきと　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

中[illegible]　秋[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　いか

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東宮但馬を除いてこの内裏にて
の内にて三条院（まちうへ）
たのつぼよりいたしあり宮人　宮人は
将監　将曹　府生などなり
すべこの九張
くはうろくてうさしよ
ちうと縫にて　紫にて　さうの
べなりしての世にて車のしたにて
をくはうくのこく
菖蒲宣　ゆりて　まく　裏法　紅梅
あつちのすこし　青表　のつはは表うと
多うまきし　すべこはとうろくすべと
ふ御　ゆりて　こと　表　裏
こはなく　紫　すべこのやうにかけなり　すべ
こはの御　ゆりて
ゆりてこれはなの多　をてこはゆりて
すべこまきしこの花しこの多なり
美薬の多　ゆりてこれはなの多
ゆはうしりこきなり
こなりの　むらの雪なり
こまきこの　源氏の物語　古今の詩
大屋ばしはさ海のうりて　古今の詩
射ちなり　中ゆはは射　高尾

わくハ羽林とものいふなりと云り
中ゐ將ハ帥よりあめるを云ハ雑色なり
とれりとも云　うゑ府ハ近衛と是ハ雑色
のすなわちうゑ府の名結ハ弱射なり
るゐ乘て的と射ることありて競馬
のすハたれと六月廿日節會武徳殿
あくとなるとは弱射のすた
てゝ信ゐるの人のまれなる事
て競馬あり今六条院てのあそび
ハ彼是の儀式とゝしるるや弱
射し競るゝ也清涼殿未不同競馬

なは竹馬ゝ物と著陵王の裝束
のゝ弱射ゝ弱衣と云ことなり
ゝりとゝん なるわれ未ゐのゝとに
てゝん競馬の裝束のすゝ分と
るひゝるゐ申ゝ申ゝゝるゝれ
て乘ゝりゝゝなり

町廊系唐頭

ゝゝゝ結びの方右

帥の宮　源氏の御方
るゝ若ゝゝき　花散里と組ゝ
ゝゝゝの今ゝや王のゝ法ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と源氏の御中[illegible]

あひしらひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

のたまつるなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言の葉の人人あり中に一ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世をしや

世世の事をしらん　皆世世

あるうくやしいうるなり

人の人をしらん作りやうやうあるなりや

まことの図の事をしらんいまのこと

をしるなり

元をしらんこと

さて猶ふかき教唐朝の書籍あり

作りハうるはしなり　日本和のの

なをハうるはしなり昔をのいさくら

おもをハあるとし一向をすといふこの

らんをしら作りやハうるはしいなあり

三ふくさ教孔子あるさうるはしく作る

仏のふかりしるしるるはしきあるはし

れ世業世世をさハれ聖を一世を

石二のとりと法をれ生のまことと

迷をのうへさしとの教ハあるを

石無のきつりは是をうるまこと

さあをなあり法いるれいあり同

実報花をれ法現仏を報身

をうさ後法をこ要産の法ハ

仏のうをはをうるうきをなる

しを教経のをあり

方便と云ふ物ありて　家初しかの法
と仮名をつけすハ佛の中ゆきとなる也
さる所なり不如意の法華経の法仮名ハ
教ハ返すなりよ之七日思惟の四位
より二乗方乗とやうなりて稽首と十
二年　仮名をつけすと中ハ合経一向の小乗
なり佛と苦薩方面位を髪とそり
方法華ハ法華ハ法華のいはけしつもれり
ハ法ハ法華ハ法華のなれとあり
よ所生れ物ハ仏ハ仏ハ是
とやうなりてうやうの方便とまうす

毎まとあり
さとりなき衆生ハ仏ハ法華ハ法華
きりてくなり方等経の中よりあくれと
ハ合経の四位ハ仏ハ法華ハ法華
ハ是ハ中ハ法華ハ法華ハ法華
ハ法華ハ法華ハ法華ハ法華
理とハ法華ハ法華ハ法華ハ法華
是ハ法華ハ法華ハ法華ハ法華
ハ法華ハ法華ハ法華ハ法華
ハ法華ハ法華ハ法華ハ法華
ハ法華ハ法華ハ法華ハ法華

各経ホ[illegible]て作り[illegible]付昔[illegible]さとりを
つ[illegible]とのさとりと[illegible]百代の元せ[illegible]
[illegible]と[illegible]と[illegible]元今元一會の元有空諸
乳[illegible]く迦葉法[illegible]三千世界のい[illegible]苦苦恍
惚[illegible]く平ひ一時とうく是よりはく
恥小墓大の拂ハ直ち同ようく或ハ別ち
[illegible]或ハ通ふ[illegible]又ハ三義よりまた
[illegible]ハ四義並對の義たれの又彈呵
の義[illegible]
[illegible]てゆひハ[illegible]ひ[illegible]
般若別法の心須彼何合ひとく碎空

砕破畢竟皆空と[illegible]はホの拂と
ゆりろ〳〵て有空一念のさとりとあ[illegible]
[illegible]
つ[illegible]又般若ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]て何事も[illegible]
法花経の円教あ[illegible]て皆摩訶[illegible]
一乗一番[illegible]純一実相[illegible]
小別の法形天陰日月月蓮華
八丸杉葉ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

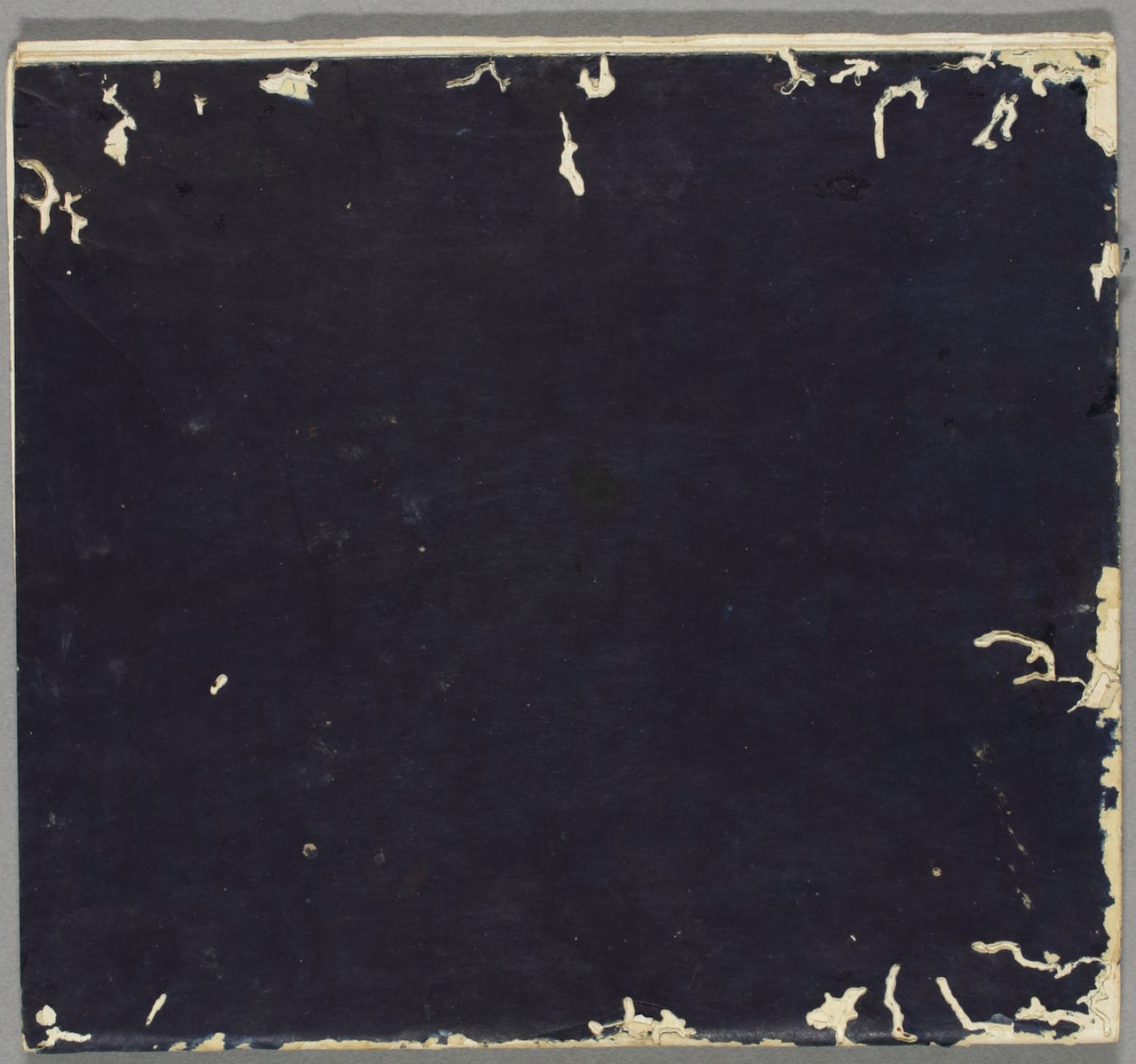
倒[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]